

レジ袋がパンジーに!? 学生考案、教職員を巻き込む学内緑化活動 ～千葉大独自のレジ袋有料化に伴う環境基金を活用～

国立大学法人千葉大学の環境ISO学生委員会は、毎年、千葉大生協のレジ袋の有料化に伴う「れじぶー基金」を使って、学内に向けた環境活動を展開しています。本年度、初めての試みとして、花が少ない時期の景観を華やかにするため、学内の部署にプランターセットを配布する活動を実施。現在、花が見頃を迎えています。

■学生がイチから企画～キャンパスを華やかに～

環境ISO学生委員会の学生が、花が少なくなる冬の時期に、キャンパスの景観を華やかにすることを目的に、今年度初めて実施した。昨年11月に、千葉大独自の「れじぶー基金」から約6万円を使って、プランターや苗など一式を購入し、学内の希望部署にセットを配布。苗植えと日々の水やりなどの管理は部署の教職員が行う。花の観賞期間が終わる4月にプランターを回収し、次年度に再利用する計画だ。この活動により、学内の緑化や環境意識の向上をめざす。



【セット内容】 プランター、パンジー苗※、培養土、緩効性肥料、ステッカー、T型ラベル、管理マニュアル（植え付け時から管理方法を記載）

※千葉大学環境健康フィールド科学センター花・苗生産部から購入

【配布個数】 プランター48個分のセット（苗は1個につき6株で288株）

【配布箇所】 西千葉キャンパス：7箇所、亥鼻キャンパス：2箇所



▲配布セット



▲植え付け時（11月）の様子



▲現在の様子



▲文・法政経学部棟の前はハート型に並べられ、訪れる人を楽しませています

■担当した学生の声（飯田浩宇・法政経学部2年・20歳）



「教職員に水やり等の管理をお任せする企画だったので、それほど多くの申込は無いかもしれないと思いながら始めたところ、「こんな企画を待っていた」という声もあるなど予想以上の反響でした。用意していたセット数以上のお申込みがあり、断ってしまった部署もありました。植物の栽培という形でキャンパスの緑化に関心がある人が多数いることがわかったので、来年度は規模を拡大して実施できればと思っています。今回は一から企画を計画立案して実行するのは大変でしたが良い経験になりました。」

■千葉大学独自の環境基金「れじぶー基金」とは

千葉大学では環境ISO学生委員会の発案により、2006年度から大学生協におけるレジ袋の有料化（1枚5円）を実施。現在、物販店舗だけで年間110万人以上が利用する千葉大生協におけるレジ袋の購入は年間7,000枚程度で、平均購入率は0.6%。「レジ袋無し」が当たり前となっています。これによりこれまでレジ袋の購入に充てられていたお金と、レジ袋の販売収入を「れじぶー基金」として生協から拠出いただき、環境ISO学生委員会が、レジ袋削減にご協力いただいた学内の学生や教職員に対し、エコグッズの割引販売など、さまざまな環境活動で還元しています。

■千葉大学環境ISO学生委員会とは

2003年千葉大学でISO14001認証取得への動きが始まるとともに発足し、環境マネジメントシステムの構築・運用に貢献。現在では、学内の基礎研修講師、環境目的・環境目標・実施計画の原案作成、内部監査、外部審査対応、環境報告書作成、省エネ省資源・緑化・堆肥化等の活動、地域との連携、意識啓発活動などを担当。西千葉・亥鼻、松戸・柏の葉地区に分かれて活動。2009年NPO法人格も取得。所属学生は約150名。指導教員は倉阪秀史（千葉大学大学院人文社会科学部研究科教授）